



学習三原則 — 生活を正す 目標を持つ 継続する

育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911

発行

第46号

高山西高等学校 育友会 文化委員会
URL <http://www.takanishi.ed.jp>



ISO14001認証取得



育友会長 下畑 了三

「劇的な変化のなかで」

平素より育友会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。今年度、改めて会長を務めさせていただきます。微力ですが、少しでもお役に立てるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新型コロナウイルスへの対応が5類となった令和5年5月8日以降、学校生活も部活動も通常のように行われることになりました。制限のない部活動のおかげで、生徒たちは自由に活動することができ、大いに成果を上げております。過去3年間は思うように開催できなかつたために、少しまごまごする場面もありましたが、現在では普通に行えることに、私たちも感謝の気持ちでいっぱいです。

しかしながら、生活の通常化に伴い、社会環境は劇的な変化を遂げています。最近では生成AIの登場が注目を浴びています。AIがホテルの受付業務やニュースの読み上げ、文章やプログラムの作成、絵やアニメーションの制作まで行うことができるようになりました。将来的には自動車の運転や料理までAIが担うことも現実のものになるかもしれません。

AIの登場により、ビジネスの世界では、効率が格段に上がっているようです。AIには体調変化も決まった勤務時間もないため、迷いのない判断基準で休むことなく大量のデータを処理することができ、特に識別や予測といったタスクにおいては、人間よりも高速で正確な処理が可能です。

学校におけるAIの対応はこれからといえる時期ではありますが、すでにAIが答案の回答やレポートの作成などを行うことができる現状において、学校や保護者の皆様もAIの活用について慎重な判断を求められています。スマートフォンの使用したSNS投稿やゲームの課金などの問題だけでなく、ますます難しい時代になってきたと感じています。

育友会の目的である「学校と家庭間の緊密な

協力によって、生徒の心身の健全な発展をはかり、その福祉を増進すること」を改めて考えると、今こそ会員相互の対面だけでなく、様々なツールを活用した意見交換を活発に行い、生徒の健全な成長を見守っていく必要があると思います。皆様からの多くの意見をいただくことで、学校と一体となり良い環境を築いていきたいと考えておりますので、何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

「日本でいちばん大切にしたい高校」へ

校長 小林 隆徳



コロナで4年ぶりの開催となった去る3月11日の本校ウインドアンサンブル部「卒業生お別れコンサート」において、野田部長の最後の挨拶は、本校卒業生全ての思いを代弁して余りあるものでした。

※(以下、概要)

「安倍元首相の号令下、突然の全国一斉休校で始まった高校生活に戸惑い、涙し、だけでも「テレビ会議」など、そのとき先輩たちが考へ得る最善の方法で彼女たち新入生の自宅でのウインドブル生活が始まりました。そのとき、失って初めて「部活が出来ること」や「演奏を披露できる場があること」が当たり前でないことに気づきました。」

「度重なる制限の中で、くじけそうなこともあったけれども、聴いてくださる方に感動していただけの演奏がしたい、私たちの演奏を通して笑顔になってもらいたい、そんな気持ちで音楽をする原動力になりました。今日この日を迎えるに当たり東日本大震災のことを思い浮かべ、自分なりに考えました。今の私が出ることは小さなことかも知れませんが、人々の尊い命や生活を守るような人になりたいと思っています」と結んでくれました。コロナ禍での本校での3年間、決して実りが無かったわけではなかったのです。本校には医歯薬学部、看護、医療系の進路を希望する生徒がほとんど

に多く集まり、その夢を立派に実現してくれています。彼女もその一人です。

さて、文科省はChatGPT等、生成AIの突然の普及に、急速「生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」なるものを発出しました。これについては後で触れますが、教育現場が心配しなければならぬ事柄は大きく二つあります。

一つ目の大きな心配は、若者たちの活躍する社会のドラスティックな変容です。10年ほど前にオックスフォード大学が出した「AIやロボティクスの進歩により」10年後に無くなる仕事」はショックでしたが、結局は「仕事」が無くなるのではなく、それぞれの職業の中のタスクが代替された、にとどまっています。しかし今回の生成AIの誕生はどうでしょう。『月刊東洋経済』の特集では、生成AIの誕生が大きな影響を及ぼす職種(職種)として、

- ◆翻訳者 ◆SE ◆記者・著者
- ◆数学者・調査研究者 ◆動物学者
- ◆印刷業 ◆弁護士 ◆教師

等々を上げ、クリエイターやプログラマーの75%は、凡庸ならばAIに抹殺されると言っています。実際ChatGPTなどを使ってみることで、そのことがリアルに実感できてしまうのです。企業の勝ち組負け組、個人の勝ち組負け組が更に鮮明になってゆくのではないかと懸念されます。そんな大海原に生徒たちを送り出してやらねばなりません。心穏やかにいられるものでしょうか。

二つ目の大きな心配は、AI依存による、学力低下の問題です。生徒たちは大きく二つのグループに分かれていくのではないのでしょうか。ひとつは生成AIを使いこなしながらも、その限界をしっかりと認識し、常に使いこなす側の人間として自らを高めていこうとする生徒。そういう生徒は「専門性、読解力、判断力の高い人間でなければ、これからの社会でよりよく生きられない」ということが分かっています。

そしてもうひとつが、AIに依存し、いつもに自分が高められられない生徒。作文はChatGPTにやらせればいい、と自分で考えることをしなくなる生徒。英語はChatGPTに翻訳させればいいんだから英語やプログラムを勉強する意味が分からない、と学ばなくなってしまう生徒……。慶應義塾大教授栗原聡さん

も言います。本当の脅威は、強力なAIの登場ではなく、「人間ならではの力」が弱まっているところにあるのです、と。生徒たち皆が、前者となるべく文科省も暫定版ガイドラインを提示しました。要約しておきます。

《生徒にやらせてはいけないこと》

- ①レポート、小論文、感想文等、生成AIに作らせたものを自分の作品として応募、提出すること
 - ②芸術、文芸などの場面で最初から安易に使わせること
 - ③調べ学習等の場面で教科書等質の担保された教材を用いる前に安易に使わせること
 - ④教師に代わり安易に生成AIから生徒に回答させること
 - ⑤定期考査や小テストで生徒に使わせること
 - ⑥人間的なふれあいの中で行うべき教育指導の代わりに、安易に生成AIに相談させること
- 《生徒にやらせた方がいいこと》
- ①生成AIのメリット・デメリットに関する学習、情報活用能力を育成すべし
- 生成AIの誤った回答を教材として、性質や限界を生徒に気づかせる授業をどんどんしなさい。生徒にもAIの問題を議論させる際の素材を活用させましょう
- ②英会話の相手をさせる、単語リストや例文リストの作成に活用させる
 - ③ダイアログの相手として生成AIを活用するなど『壁打ち』相手としての活用
 - ④オリジナル文章の推敲に使う
- 生徒オリジナルの文章を作成する上で、足りない視点を見つけさせるような場合の活用はありである
- ④プログラミングを学んだ上で、より高度なプログラミングを行わせる
- まとめると、以上のようになりますが、推進する前に、必ず繰り返し丁寧に指導すべきこととして、安易な活用は著作権侵害の可能性があること、個人情報漏洩は絶対しないこと、生成AIの回答を過

信せず、必ずファクトチェックを行うこと。今後AIを活用した詐欺が増加する。フェイクや詐欺に十分注意すること。以上は絶対に抑えておかねばなりません。すべてにおいて、まずは教員自身が生成AIを使いこなすところからです。『ユマタン』の木村達哉先生は、英語指導における生成AIの活用について以下のような方法を紹介されています。以下キムタツブログより(一部省略)

『スピーキング指導(や自由英作文指導)の場合、トランスクリプトの作成は一つの重要な段階となる。一定のレベルに到達すれば、トランスクリプトを作成せずとも簡単なメモを参考にして英語を話すことができるようになる。しかし、そのレベルに到達するためには相当な訓練が必要である。その意味では、中学生や高校生ほとんどの生徒は、自由英作文のような形でトランスクリプトを作成することになる。その際には、ChatGPTやDeepL、DeepL Writeなどが役に立(完全)に生成AIに作らせるのも問題はないと思うけれども、教室の中で活用するのであれば、まずは自分で書いてみて、そのミスを書き指摘させることで、より力を付けることができるだろう。』

DeepL、DeepL Write、ChatGPTを使ったツールに関していえば、これらを用いなければ仕事が成り立たない時代になったといえるだろう。生徒たちにも早い段階から正しい使い方を指導するのは、情報科教員だけの仕事ではないと私は考える。』

ところで、実は、ここまでの文章はChatGPTに作らせたもので、といたらドキッとしますよね……。それくらい脅威ですよ。

このAI時代をスマートに乗りこなす、人間味にあふれた、魅力のある若者を育てていかねばなりません。

Noblesse Oblige



新たな一歩を 教頭 谷口 正彦



195名の新生を迎えて

今年度は195名の生徒が入学してくれました。今年度も、「生徒一人一人が日々の学校生活に満足して帰宅できるようにしよう」を目標に掲げ、職員一同切磋琢磨しています。授業はもちろん、部活動においても、お子様の将来を見据えて指導にあたりたいと考えています。ご理解とご協力をお願いします。

6月19日に西高祭を実施しました。例年は500名を超える保護者の皆様に御

来校いただき、盛大に開催していましたが、昨年に続き今年もコロナ禍の中、3年生の保護者にもみご案内を出し実施しました。来年は全学年の保護者の皆様にも来校していただける状況になることを願っています。また、9月5日に体育祭が予定されています。体育祭も状況を見ながらどこまでご案内を出すか決定する予定です。何卒ご理解をお願いします。

一年生の保護者の皆様

お子様が入学され、もう4か月経ちます。ご家庭での様子はいかがでしょう。私は、「1年生に廊下等で会う」「学校は楽しいか?」「学校には慣れたか?」などと聞いかけてます。すると、多くの生徒が大きな声で、「超楽しいです」などと答えてくれます。とてもうれし気持ちになります。

本校では、「夢かなえる!」をキャッチフレーズに進路指導の充実をはかっています。夢をかなえるには、まず「夢を持つ」こと、次にそれに向けて「努力を継続する」こと、そして何より「きっちりとした生活を送る」ことが重要です。本校は、「一生懸命頑張る子が評価される学校」「学習できる環境が整った学校」であり続けたいと考え、努力しています。

ぜひとも、本校の教育方針をご理解いただき、同じ方向でお子様をご指導いただきますようお願いいたします。もし、

昨年度の進路実績

何か異変等に気付かれた場合は、遠慮なく担任に連絡して下さい。また、学校で何か気づいた場合は、ご家庭へ連絡させていただきます。学校と家庭とが車の両輪となつて同じ方向で指導することが大切であると本校では考えています。ご協力をお願いいたします。そして、子どもたちの夢をかなえさせてやりましょう。

ここで、昨年度の進路実績についてご報告いたします。昨年度も生徒たちが本当に努力し、お陰様で就職・進学において以下のような実績を残すことができました。

まず、就職状況についてですが、就職



希望者28名(うち公務員8名)全員が本人の希望する企業から就職の内定をいただきました。近年は、企業の方から「高山西高校の卒業生は、休まず一生懸命に仕事をしてくれる。ぜひ、今年も卒業生を紹介していただきたい」というありがたい言葉とたくさんの求人をいただいております。

次に、進学における合格状況ですが、4年制大学22校(うち国立36校)、短期大学12校、専門学校32校でした。具体的には、岐阜大学医学部医学科をはじめ、金沢大学や岐阜薬科大学、東京都立大学といった国立大学や、慶應義塾大学や早稲田大学をはじめとする私立大学にも多数合格しております。

「受験の天王山」といわれる夏のまっただ中ですが、これからの努力で大きく伸びる可能性は十分にあります。3年生の



生徒諸君には、最後まで諦めることなく、より一層の努力を期待しています。

活気に満ちた部活動

東海総体、インターハイ岐阜県予選及び甲子園岐阜県予選、飛騨地区総体も実施されました。勝利を目指し、プレーする生徒はもちろん、ベンチに入れない、試合に出られない生徒も必死になって声援を送り、チームの一員として一生懸命に応援していました。すばらしい光景でした。特に3年生は、部活動を通して多くのことを学んだことと思います。この経験を今後に生かしてほしいと強く願っています。

3年連続でインターハイに出場を決めた剣道部女子の皆さん(7名)、レスリング部の皆さん(7名)、アーチェリー部の皆さん(2名)本当におめでとうござります。インターハイでのさらなる活躍を期待し、全校で応援しています。この会報が配布されるときには結果が出ている部もありますが、詳細はホームページをご覧ください。

情報ビジネス部は、昨年全国準優勝でした。今年は優勝を目指し、頑張っています。また、ウインドアンサンブル部も県大会、東海大会、さらに全国大会を目指して頑張っています。

新たな一歩を

素直で真面目な生徒が多く、学校を訪問されるお客さんからはよく褒められます。また、求人に来校された多くの方か



ら、ぜひとも西高校の生徒がほしいと言っていたいただいています。先日も大学の関係者が来校され、「御校の卒業生はどの子も真面目で一生懸命にやってくれている。今まで以上に御校の生徒がほしい」と推薦枠を増やしていただきました。非常にありがたいことです。

ただし、我々は現状に満足はしていません。さらに、子どもたちのニーズ、保護者の皆様のニーズ、そして社会のニーズに応えられる学校となるように努力していきます。

保護者の皆様も今以上にご協力をお願いします。

「西高校へ入学して」

1年保護者 中津 あかね

西高校へ入学して、あつという間に3か月が過ぎました。0限がある？ 土曜日も授業？ 夏休みもほとんど無い？ 色々な噂を耳にして、勉強ばかりの毎日に心が折れないか親子ともども期待と不安を抱えてのスタートでした。実際、噂は噂ではなく事実でした。しかし、そんな心配をよそに、疲れた顔を見せることもありますが、一日も休まず夏休みを迎えることができたのは、クラスの仲間や先生方のお陰と感謝しております。

2才からの保育園は20人、小学校6年間も20人1クラスと、顔見知りばかりの環境で過ごした娘は、中学校でいきなり150人を超える同級生の数に圧倒されていました。分かつてはいたものの、どう仲良くなれば良いのか距離感がつかめずに苦しい時間を過ごしていました。高校では勉強に専念し、同じ目標に向かう仲間と小集団で切磋琢磨したいと西高校を選びました。中学校で仲良くなった友人たちは公立高校に進学し、ともに西高校を目指した仲間は皆塾等に通い、入学前から西高校のことをよくわかっていて、入学して間もない頃は親子とも、あまりにも無知な自分たちに不安も覚えました。しかし、娘のクラスは18人クラス、例年通りなら担任の先生もクラスメイトも3年間変わらないとのこと、落ち着いた環境で勉強に向かうことができている。西高校の先生方の教え方や授業内容に感動し、学ぶ意欲に溢れています。また、高山市内研修や文化祭、バケツ注水リレーへの参加など、全てが新鮮で行事の楽しさも満喫しているようです。

娘の16年の人生の中で学びの機会の一つとなったのがハンドボールです。小学校3年生から約6年間、色々な経験を通して心も体も大きく成長しました。今勉強に向かう集中力と疲れていても頑張る根性は、ハンドボールによって培われたものだと思えます。チームプレーなので人間関係で学ぶことも沢山あり、仲間にも恵まれ充実していました。全国大会をめざし、暑い夏も寒い冬も毎週毎週体育館で過ごしました。中学校はコロナ禍の3年間で、部活動の地域クラブ移行の流れもあり、諦め



ること、努力してもいつも報われるわけではないことも経験しました。納得のいかないことを一生懸命呑み込もうとする姿は親として胸が締め付けられる想いでしたが、ただ娘を信じ、見守り、乗り越えるのを待つことしかできませんでした。今は次の目標に気持ちを切り替えて前進を始めた娘にホッとしています。我が家は娘が幼い頃より、私と3歳年上の兄との3人暮らしです。この春に息子が大学進学で高山を離れたので母娘2人暮らしになりました。良い時も悪い時も3人でバランスを保っていたので、2人で顔を突き合わせる暮らしからは逃げ場がなく息がつまるのではないかと心配しましたが、楽しく暮らすことができている。高校でまた一つ世界が広がったことで、客観的に自分の育ってきた環境を捉え始めたようです。経済的にも人数的にも不足を感じ不都合を訴えることもあった娘が、最近悪いことばかりでもないと感じ始めたことは嬉しいです。

日々の小さな幸せに気づくことができる人であってほしいと願って子育てをしてきました。予測できないほど変化の速い時代を生きていくこれからの娘に、私がしてあげられることは多くはないでしょう。沢山の人から謙虚に学び、感謝の心を忘れず、どのような状況にあっても前を向いて歩いていけるよう、身体に気をつけて西高校での3年間を過ごして欲しいと願っています。

「本気と向き合う」

2年保護者 山崎 まゆみ

娘も先日入学したと思っていました。気が付けばもう2年生になってしまいました。娘は兄の影響で剣道をしています。ご縁があって高山西高校に入学しました。地元が福岡県なので、すごく悩んだ後の決断でした。西高校への進学を決めたものの、岐阜県などという800km以上も離れた地に、中学校を卒業したばかりの娘を預けるということで、怪我や病氣、そして何よりも精神面でのサポートをどうしたのかと不安を抱きながら娘を送り出しました。

娘は4人兄弟の2番目です。真ん中で挟まれており、また、長女のせいなのか、しっかり者で、あまり感情を外には出さず、胸の内にしまい込んでしまう子でした。だから、うまく人間関係を築いていけるだろうか心配しましたが、そんな親の心配とは裏腹に、本人なりに頑張っている様子です。今クラスの仲間とも、剣道部の仲間とも仲良くやっているようで安心しています。遠方ですので、ほとんど様子を见に行けることはありませんが、先生を始め、剣道部の保護者の皆様、そして仲間たちが本当に良くしてくださり、お陰さまで「帰りたい」「寂しい」などの弱音を吐くことなく元気に過ごしていることに感謝しています。ある日「学校にお弁当を作っていく」と言い出し、お弁当箱と1.5合炊きの炊飯器を買ってあげることにしました。それから作ったお弁当の写真を送ってくれます。色とりどりに詰め込まれたお弁当を見て、「よし！ 今日もう元気だな、私もお仕事頑張ろう」と元気をもらっています。おたがい親離れ、子離れです。遠くに預けて、私も娘も少しずつ成長しているように感じています。

そんな娘には大きな課題があります。「それは本気になる」ということです。何でも普通にこなしてきた娘は特に欲もなく、必要最低限の姿勢でやってきています。それが高山西高校に入学して剣道を通じて少しずつ「本気」で向き合うことを学んでいます。1年生の時は夏に福岡で開催される玉竜旗大会には、お



留守番だったので帰ってこれませんでした。しかし、当時の保護者会長さんが「ゆりねは偉いですよ！ 出発の日、独りで床の雑巾がけをしていたから罰ゲームか聞いたところ、自主的にやっていたんです」とおっしゃいました。私は娘が自分たちの稽古する大切な場所を自ら雑巾がけをしているのを知って、とても嬉しかったです。些細なことかもしれないけれど、この感謝の気持ちが続くといいなと思いました。

4月になり、娘も2年生になりました。たくさんの先輩ができて、意識も少しずつ変わってきていると先生が話してくださいました。今年のインターハイ予選では、前半、娘を使ってくださいました。あまり連絡をよこさない子ですが、予選当日の早朝、一通のラインが届きました。「行ってきます…！」と、その一言で何らかの娘の気持ちの変化と強い思いを感じました。そして娘の試合動画を息子に送ると、ちょうど剣道がうまくいっていない時期だったようで、「ゆりねの試合を観て、もう一回頑張ってみよう」と思ったりと連絡がありました。娘の頑張りが、お兄ちゃんを勇気づけたのも、なんだか込み上げてくるものがありました。大会当日の夜電話がありました。なかなか素直な気持ちを言わない子ですが、すんなり自分の気持ちを話してくれました。先生方や周りの方々のお陰で少しずつ成長していています。娘が「本気を出す」に引き合せて、どう変わっていくか、またそれがどんな形となって現れてくるかとも楽しみます。そして、この経験が、これからの進路や社会に出た時にきつと役に立つときが来るはずですよ。娘の挑戦はまだこれからも続いていくでしょう。私はそんな娘を陰ながら応援しています。

最後に熱心に指導くださった先生方、そして何かと気にかけてくださる保護者の方々や仲間の皆さん。これからもよろしくお願いたします。そして、ありがとうございます。

「前途洋々」

2年保護者 笹俣 博嗣



「俺はあちゃんちへ行く……」中三のとき息子が言い出した進路希望は、岐阜市を離れ下呂市内にある私たちの実家から高山西高校へ通うことで叶うこととなった。親元を離れて甘々な祖父母の下で暮らすことになる息子に不安を抱いた私たちは、息子に二つの条件を課した。一つは勉強して検定を取ること。二つ目は何か部活動を3年間やりきること。二つ目の条件は英検準2級、漢検準2級を取得することを目標として何とか達成。二つ目の条件として選んだ部活動は……レスリング。将来の夢である警察官の仕事に役立つというのがその理由だった。警察官の必須は剣道もしくは柔道であるが、剣士らしい体型とは真逆の息子に剣道は明らかに向いておらず、また柔道部がなかったことから、柔道に通ずる部分もあるレスリング部への入部を決めた。

そうして始まった高校生活。祖父母になるべく迷惑をかけないようにと交わした私たちとの約束事はことごとく反故にされた。たとえば、朝は自分で起きる……。バス停までは自転車で行く……。だったはずが、毎日祖母に起こしてもらい、祖父に送ってもらった。この調子では部活もどうなるかと心配したが、これは予想外に続いた。入って分かったことだが、高山西高校のレスリング部は小学生のうちから始めた子がほとんどで、高校から始めた息子は異色の存在だった。体のわりに気の小さい息子は、知り合いもなく経験者ばかりの中で毎日揉まれて、肉体的にも精神的にもふらふらになっていったようだ。片道1時間のバス通学では何度も寝過ごし、迎えの祖父をハラハラさせていた。

そんな状況であったが息子にとってラッキーなことがあった。それは重量級で体重を気にせずにすんだことと、顧問が担任の先生だったことである。食べることが好きで、それが何よりのストレス発散になる息子が食事を制限されていたら、これはもう無理だったと思う。逆に体重を増やすと褒められる環境は救いだった。そして何より顧問の先生の存在は大きかった。先生には学校生活、部活のほか私生活にいたるまで、親元から離れている息子にいろいろな面でご配慮をいただくとともに、人として大切なことにもご指導をいただいた。息子は先生を信頼すると同時に先生を畏れ、部活には(他のことに比べて)誠実に取り組み組んだ。それは次第に結果となって現れ、試合で勝てるようになっていった。勝つ喜びを知ってまた頑張る。良いサイクルが始まった。2年生になるころには部活を続けられるかという心配は杞憂となった。良い仲間にも恵まれ、忙しくも充実した日々を送っていることは離れて暮らす私たちにも伝わってきた。ただ、息子のレスリングの腕前については、コ罗纳で練習や試合を見学する機会がなかったこともあって知るよしもなく、ときどき顧問の先生やコーチからあった「上手になった」という言葉を社交辞令と捉えていた。

件として提示した部活動は、息子にとって大きな存在となっていた。仲間たちと励まし合いながら試合に臨み、今までに見たこともないくらいに燃えていた。いつのまにかインターハイ出場というしっかりした目標を持つようになっていた。高山西高校でレスリングに出会わなければ全く縁のないものだった。そして掴んだインターハイ出場。3年前には想像もしていなかったことだった。

息子は、先生、コーチ、チームメイト、友だちのおかげでここまでできた。私たちは高校での息子の成長にほとんど携わることとはなかった。ただ一つ私たちがしてあげられたのは息子の考えを否定しなかったこと。進路希望が「ばあちゃんちへ行く」とは今から思えばおかしな話だが、それも受け入れたことが今につながったと信じたい。インターハイ、国体と続くが、これからも思うままに自分で突き進んでいってほしい。



育友会活動報告

〈2023年度 前期(4月~8月)〉

- 4月 7日 / 育友会入会式
新1年生195名とその育友会員を迎える。
- 4月12日 / 第1回育友会役員会

- 5月10日 / 岐阜県私立高等学校保護者連合会
第1回常任幹事会常任幹事会 岐阜・十八楼
- 5月11日 / 育友会総会
- 5月26日 / 岐阜県高等学校PTA連合会定期総会
オンライン会議

- 6月 7日 / 岐阜県私立高等学校保護者連合会通常総会
岐阜・十八楼

- 7月~8月上旬 / 私立高等学校補助金増額署名依頼

「成長している手応え」

1年I組 小笠原悠太

僕はとても勉強が苦手です。中学生のとき友達と遊んでばかりで、なかなか勉強することができませんでした。中三で受験生になり、進路や将来の夢について、親と相談しました。自分が見つけた答えは、体育の先生になるという夢です。僕が教えてもらっていた先生はとても親切で元氣な先生で、そんな先生に僕は憧れ、体育の先生になろうと決めました。そこで僕は高山西高校に進学しようと思えました。

中三の夏休み。今までさぼっていた分、毎日勉強しました。そうしたら、今までで一番良い点数を取ることができました。高校の入学試験までずっと図書館に通い続け、そして無事に試験に合格することができました。

そして、迎えた入学式。新しい仲間と一からのスタートになりました。最初は友達ができるかとても不安でしたが、日にちが経つにつれて、友達がたくさんできて安心しました。高校で初めての漢字テストがありました。中学の頃、漢字がとても苦手で、12問中4問くらいしか取ることができませんでした。だから、100点を取るために一生懸命頑張りました。それでも結果は100点を取れず、とても悔しい思いをしました。今まではテストで悔しいと思ったことがあまりなかったので、成長している！と感じました。どうしたらよいか考え勉強方法を変えてみたところ、100点を取ることができました。テストをもらった瞬間、嬉しすぎて手の震えが止まりませんでした。それから自分に自信を持ち、僕がクラスの模範になれるよう、毎日サボらずに勉強をし、連続で100点を取ることができました。

そして、高校初めての前期中間考査が来ました。クラスで1位を取るために夜遅くまで勉強し、朝早く起きて勉強しました。またスマホを使う時間も減らしました。そうして迎えたテスト本番では、僕はとても緊張しま



した。結果が気になっていたテストが返ってきましたが、凡ミスがたくさんありました。とても悔しくて、「なんでしっかり見直ししなかったんだ！」とか、「もっと勉強しろよ！」と自分で自分に言いました。順位は2位で悲しかったですが、今までそんな順位をとったことがなかったです。とても嬉しかったです。これからは1位を目指して勉強を頑張りたいです。

僕は中学校のとき本当にずっと遊んでばかりで勉強をあまりやらず、クラスでもあまり良い成績ではありませんでした。しかし、将来の夢が決まり、高山西高校に入学しました。それから自分を見直し、勉強で頑張れるようになりまし。中学校の時とはクラスの仲間がガラリと変わり、新しい仲間とともに、これからも辛いこと、楽しいこと、悲しいこと……。たくさん経験して、遊ぶときは遊ぶ。勉強するときは集中して一生懸命頑張りたいと思います。また、必要のないものは近くに置いたりせず、一つ一つ目標を立てて、それを達成するために仲間と協力し合って、メリハリを持って、たくさんの方に挑戦して、これから頑張っていきたいです。

「夢を叶えるための努力」

2年J組 三井蒼葉

私には二つの夢があります。その夢を叶えるために、高山西高校に入学しました。

一つは、小さいときの夢である助産師になることです。助産師になりたいと思ったきっかけは、赤ちゃんが好きなこともあり、小学2年生の夏休みの調べ学習で命の誕生について調べたことです。参考書を読んだり、病院の分娩室なども見学させて頂いたり、助産師の方のお話を聞かせて頂きました。その時、命の誕生はとても素晴らしいことだと感動したので今でも覚えています。このときから命の誕生に立ち会える仕事がしたいと思い、助産師を目指そうと決めました。

二つ目の夢は、中学校から始めた陸上でインターハイに行くことです。陸上を始めた当初はハードルを専門種目としていましたが、怪我が多く記録も伸びなかったことから、中学2年生の時に専門種目を砲丸投げに変更しました。砲丸投げはただ投げれば良いというわけではなく、重い物を投げる力も必要です。瞬発力やスピードも必要です。そして、さまざまな投げ方があるため、技術や集中力も必要とされました。でも砲丸投げの楽しさは、たくさん練習すると記録に反映されるためモチベーションが上がるのでした。私がいっつも心にかけている言葉は、「苦しみは喜びの貯金」です。毎日の朝練も放課後部活も週末も、休むことなく練習を続けました。その結果、中学校最後の大会で県1位を取ることができました。そして部活動の先輩が全国大会に出場したのを見たとき、自分も高校でさらに頑張つてインターハイに出場したいと強く思うようになりまし。

これら二つの夢を叶えるために、学業と部活動のどちらにも力を入れて西高校に進学しました。でも現実はとても厳しかったです。高校では中学の倍以上の宿題やスピードの速い授業が待っていました。部活動の時間も、中学校より遅い時間まで練習し、帰宅すると疲労感も今までの倍以上ありました。だから毎日の生活は大変ではないと言ったら嘘になります。さらに、県大会に行くと、参加人数も多いし、周りはとても強い選手ばかりで、実



力の差に落ち込むことも多いです。記録もたくさん伸びるわけではないし、厳しい練習もありました。そんな状況でも勉強と部活を頑張れる理由は、二つの夢を叶えたいという強い気持ちがあるからです。しかし、それだけではありません。私は決して1人の力で頑張っているわけではなく、同じ思いで目標に向かって練習をともにしている仲間。いつも応援してくれ寄り添ってくれる皆さんの友達。記録を出せるよう指導し、サポートしてくださる先生やコーチ。毎日栄養バランスを考えてお弁当を作ってくれる母。私はそんなにも多くの人に支えられて今があります。

「人生とは、先にあるものではなく、後に続いていくものだ」と母が教えてくれました。私の人生はまだスタート地点に立ったばかりです。これから先、困難なことや悩むこともたくさんあると思います。でも部活動で身に付けた力や仲間との絆が、これからの自分の支えになると思っています。私を支えてくれていた皆さんの人への感謝を忘れずに、夢を叶えるため努力していきます。

「西高校で学んだこと」

3年F組 古田 瑛莉子

私は西高校での2年半で学んだことが二つあります。

一つは試行錯誤することのおもしろさです。私は高校受験の勉強をするにつれて、ようやく知った勉強の面白さを今後も知り続けたいと思います。西高校の特進クラスに入りました。中学生のとき勉強は特に得意という訳ではなく、また勉強の積み重ねや習慣などもさらさら身につけておらず、特進クラスの生活に慣れるのに時間がかかりました。模試の結果ももちろん良いとはいえなかったと思います。1年生の頃はあまり重く受け止めなかったこともあり、模試の復習なども怠っていました。そんな中では当たり前ですが成績は伸びないので、先生たちのおっしゃった大切なことを復習したり、調べたりするようにしました。さらに模試の復習はもちろん、普段の習慣などを変え始めました。その結果、基礎が安定してきたので順調に伸び始め、偏差値が安定し始めました。



そこからの高校生活において、私の考え方はとても変わっていききました。テストのためとばかりだった勉強を、入試のためだけでなく今後の自分の人生を決めるものとして扱ったり、ふだんの勉強時間に満足したりせず、一日の生活の質というものをさまざまな機会に考えました。

これは中学生までの自分では想像もできないことで、何ごとも勉強に繋げて考えられるようになったことも成長の一つです。加えて、志望校に対する意識も大きく変化したなと思います。中学生のころ大学は「東大・京大・早慶」しか知りませんでした。そんな状態で高校に入ったので志望校が決まるわけもなく、そのころ候補に上げた大学はすっかり忘れてしまいました。それに比べて今は、志望する大学に対しての想いがあると、やっぱり勉強にも身が入るものです。ただ自分のレベルに志望校を合わせるのではなく、志望校のレベルに自分を合わせるのではなく、頑張ろうと思っています。

二つ目は当たり前前であることを当たり前前だと思

われないということです。勉強を続けていくなかで、勉強の質を上げることや、自分のやりたいことを見つけるには、誰かの支えが必要だと気づきました。その考えに至った経緯として、社会主義思想のオーウェンについて倫理の授業で習ったということがあります。オーウェンはイギリスで平等社会を実現させたのですがアメリカで失敗してしまいました。失敗した理由は「貧困層の人々にとってオーウェンに優しくされる、大切にされる、平等に扱われることが当たり前になったから」ということらしいです。慣れというものは怖いものだと思います。先輩のみなさんには「当たり前ではないこと」を今現在当たり前だと思っていないか見直して欲しいです。9限という遅い時間や

日曜日、ましてやGWや盆休み、正月休みなどの、世間一般でいうと休める期間に授業を受けるということは、先生方が私達のために自分の時間を割いているからできることです。仕事とはいえ、これは当たり前前なことではありません。授業で疲れた、テストは嫌だ……と主観的な意見を謳うのは、先生方が私たちのために動いて下さっていることを当たり前前だと思わず、授業やテストなどを一つ一つ大切にしていきたいと思います。

以上が、私が西高校で過ごして感じたことです。試行錯誤することで自分のやりたいことを見つけ、当たり前前が当たり前でなくなるとき、人は変われると思います。当たり前前だと思っていたことが当たり前前ではなかったと気づけば、今またそれは観点が変わったかと思えます。だから何より皆さんには、先生方のやってくださる授業やテストを嫌だということをやめて、感謝してほしいです。先生方に限らず、両親や友達にも感謝を忘れないでいて欲しいです。

令和5年

部活動速報

〈前期〉

2023年度 全日本ジュニアレスリング選手権大会

- 準優勝 堤 大智(1K)
*「アジア選手権大会出場」(キルギス共和国)

『翔び立て若き翼 北海道総体2023』 インターハイ出場予定

- 剣道/女子団体(4大会連続4回目)
女子個人 ベスト16 若尾(3J)
- レスリング/男子学校対抗戦
男子フリー 3位 堤(1K)、直井(3A)・笹俣(3J)
女子フリー ベスト8 今井(3I)、圓山(2I)
- アーチェリー/男子個人 長澤(3J)
女子個人 岩西(2K)

全国高校生グレコローマンスタイルレスリング選手権大会 出場予定

- 直井・笹俣・堤

全国パソコン技能競技大会 出場

- 情報ビジネス部

東海高等学校総合体育大会出場

- ハンドボール/男子
- バスケットボール/男子4位
女子
- 剣道/男子団体 3位
女子団体 優勝 女子個人 若尾 3位
- アーチェリー/男子団体 女子個人 岩西
- レスリング/男子学校対抗戦 3位
男子フリー 笹俣 優勝・直井 3位・堤 3位
グレコ 堤 優勝・直井 2位・笹俣 3位
女子フリー 今井 2位・圓山 2位
- 陸上/男子 100mH 若田(2J)
5000m 内木(3I)
8種競技 鈴木(2I)
女子 1500m 久保(3A)
3000m 久保・長瀬(3A)
走幅跳 桂木(2K)

飛騨地区総合体育大会

- 団体競技 優勝旗 9本獲得!
- ◆ハンドボール(男子) ◆剣道(男子・女子)
- ◆バスケット(男子・女子) ◆陸上(男子)
- ◆バドミントン(男子・女子)
- ◆サッカー(男子)



テーマ

西高生の西高生による 西高生のための 文化祭!

爽やかな晴天のなか6月19日に行われた今年の西高祭は、久しぶりの対面形式での開催でした。過去2年の経験を活かすことが難しく、西高祭を迎えるにあたり不安でいっぱいでした。しかし、西高祭を楽しみにしている全校の皆のために、生徒会役員で、新しい形での西高祭を作り上げるための話し合いを重ねました。さまざまな場面で意見がぶつかりましたが、3年生が楽しめる文化祭にしたいという思いから、2・3年生はステージ企画、1年生は展示という形を取りました。西高祭当日は、3年生をだけでなく、全校生徒が楽しんでくれている姿を見ることができて、とても嬉しかったです。

ステージ企画〈順位〉


1位:3-I 2位:3-G 3位:3-J

Tシャツコンテスト〈順位〉

1位:3-I 2位:1-K 3位:3-K




赤団



団長 北澤 史琉 (3A)

赤団団長の北澤史琉です。今年の体育祭はコロナによる制限がなく、例年とは違った応援合戦やたくさんの競技種目の復活など、数多くの変更点がある体育祭となります。その中でも、僕たち赤団は「勝ちにこだわりながら楽しむ」ということを全面に表現していきます。そのために団幹部・サブリーダーを中心に、一人一人がクラスの中だけでなく、学年を越えての繋がりを大切にして協力し、赤団一丸となって頑張ります。


青団



団長 尾前 徳厚 (3H)

今年の青団の団テーマは「笑顔」です。青団の団員全員が競技に対しても、応援に対しても、持っている力を最大限に発揮し全力を出し切って最後には団員全員が最高の笑顔で終わることができるように、青団全体で協力し助け合っ、青団が一丸となって臨みます。この体育祭が、誰にとっても高校生活の最高の思い出として残すことができるように、全員で楽しみ、体育祭ができることへの感謝を忘れず、最高の体育祭にしましょう。

黄団



団長 松田 彪雅 (3J)

今年は全学年初めてのコロナ制限のない体育祭となります。全員が例年の体育祭を経験していないということでも大変だと思いますが、幹部を始めとした団役員が中心となって新しい西高の体育祭を作り上げていけるように頑張ります。また、団役員だけでなく、黄団のメンバー1人1人が協力し合い、新たな出会いや支えてくださる全ての人に感謝し、全力で楽しんで思い出に残る最高の体育祭にします。

編集後記

遠足や文化祭が実施され、部活動の大会が開催され、今は体育祭の準備に奮闘している生徒たちを見て、日常に戻ってきたと実感しています。しかし約3年間をコロナ禍に過ごしてきた生徒たちにとっては、こちらの方が「非日常」なのか、という思いがよぎることがあります。彼らは精神的にも身体的にも最も活発になる中学、高校時代に、「外に出るな」「他人と接触するな」と周りから言われてきました。それが彼らの「日常」でした。仕方のない事とはいえ、これほど辛いことはないと思います。文化祭での彼らの元気なダンス、歌、そして笑顔を見て改めて思いました。彼らが今後、様々な「非日常」な活動を通して、人とふれあい、語り合い、心身共に大きく成長し、明るい未来が訪れますように……。

(文化委員長)